

**A・B・C級路線の区分は表1のとおりです。**

|                            | 路 線 名                                                                                                                                                    |
|----------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <b>A 級 路 線<br/>(20路線)</b>  | 古川渡田野倉線、姥沢川通り線、天神通り線、元坂小野線、宮下倉見線、側道古川渡東桂線、川茂堀ノ内線、太平線、栄町四日市場線、横畑加畑下大幡線、湯ノ沢夏狩線、桂町夏狩線、桂町門原線、側道川茂小形山線、長者町新道線（市立病院入り口）、農道牛石線、上戸沢朝日線、四日市場桂高線、栄町長者町線、栄町長者町線支線3号 |
| <b>B 級 路 線<br/>(226路線)</b> | 上記以外の主要道路および市民生活圏内道路で機械除雪可能な道路                                                                                                                           |
| <b>C 級 路 線</b>             | 機械除雪が不可能な道路で市民が協力して手作業で除雪する道路                                                                                                                            |

実施にあたっては、防災行政無線などにより市民に呼びかけ、自治会および組単位に市民と行政が一体となり除排雪を行います。

特に歩行者の安全を確保するため、C級路線や歩道は、市民の皆さんにご協力いただき除雪することとし、機械除雪の際にできた戸口付近の雪たまりの除去も併せて行っています。

また市では道路側溝や排水溝をせきとめないようパトロールを行い、常時雪を排除するようにします。

最終雪捨て場は、菅野川住吉橋下流の河川敷として、各地域臨時雪捨て場については、地域の実情に応じて公共用地および民地を確保するよう努めます。

**高齢者など  
災害弱者対策は？**

一人暮らし老人、老人世帯、身体障害者世帯、母子世帯、生活保護世帯、知的障害者世帯を豪雪による家屋の倒壊や火災などの事故から守るため、自治会（組）、民生委員の皆さんの協力を得て災害事故防止に努めます。

市職員はケースワーカーを中心に、パトロールを実施して、救助を必要とする世帯に勇気づけを行うとともに、地区民生委員・自治会長と連携をとり、地区住民の協力を得て、家から道までの除雪を行い、事故防止に努めます。



**児童・生徒  
通学対策は？**

児童・生徒の通学事故を未然に防止するため、学校と教育委員会、情報の収集と通学路の安全確保などについて連絡調整を行います。

各学校などにおいては、校内の出入り口の除雪や凍結防止を行うとともに、休校、父兄の引き取り、引率者による集団下校などを検討し、児童・生徒の安全に努めます。通学路の確保については、学校、自治会、育成会などが一体となり、除雪をお願いします。

**ゴミ処理対策は？**

大雪の影響で、ゴミ収集車の運行が予定どおりできないときは、防災行政無線により市民に呼びかけ、ゴミステーションへのゴミの持ち込みを控えるよう協力を求めます。

また、収集車の通行を確保するため、自治会（組）などは協力して、ゴミステーションの除雪を行っていただきます。

なお、ゴミ収集が長時間（一週間以上）できなかった場合で、一斉に多量のゴミが持ち込まれ、ゴミ処理能力を超えることが予想される時は、大月都留広域事務組合と連携し、収集処理します。この際、市民の皆さんには十分広報し協力を求めます。

**アンケート調査の結果では、災害などの有事の際には、組単位、自治会単位での活動が有効であり大切であること、また組織的に活動を行う方がより大きな成果が得られることなどが指摘されました。**

**このマニュアルが、市民と行政との連携をさらに強め、二十一世紀に向けての住みやすい環境づくりと、災害に強いまちを形成するための一助となれば幸いです。**